

保存版

こどものための 予防接種のしおり

令和8年4月発行

こどもは感染症にかかりやすく、かかると重症化することもあります。予防接種で予防できる病気もあります。

予防接種を受ける前には、この「予防接種のしおり」を必ずお読みいただき、内容をよくご理解いただいたうえで、接種を受けてください。



★最新の情報は、
横浜市のホームページで
ご確認ください。



◆ 予防接種の受け方について ◆

生後2か月を過ぎると、小児用肺炎球菌や五種混合などが受けられます。接種スケジュールについて、かかりつけ医と相談しながら、計画的に接種しましょう。

生後5か月になったら、結核予防のために、BCGを接種しましょう。

また、満1歳になったら、麻しん・風しん混合(MR)ワクチンを優先して接種しましょう。麻しんは感染力が強く、発症すると重い合併症を起こすことがあります。お子さんにとって負担の大きい病気です。特に、集団生活をしているお子さんには、早めの接種をおすすめします。

横浜市医療局

目 次

1	予防接種とは	P 1
2	横浜市の予防接種	P 1
	定期予防接種一覧	P 2
3	同時接種と接種間隔	P 4
4	接種前の注意	P 6
5	接種後の注意	P 8
6	各感染症とワクチンの概要	P 9
	B型肝炎	P 9
	ロタウイルス胃腸炎	P10
	ジフテリア、破傷風、百日せき、ポリオ、ヒブ（五種混合、二種混合）	P12
	結核（BCG）	P14
	肺炎球菌感染症	P15
	麻しん、風しん（MR）	P16
	水痘（水ぼうそう）	P18
	日本脳炎	P20
	子宮頸がん	P22
7	予防接種の救済制度	P24
	【参考】 委任状の様式（例）	P25
	お問い合わせ先	P26

◆ 予防接種に行く前のチェック ◆

- 1 医療機関に予約はしましたか？
（もしくは予約が不要な旨を確認しましたか？）
- 2 お子さんの体調は良いですか？
- 3 今日受ける予防接種について、必要性、効果及び副反応などについて、理解していますか？
分からないことがあれば、質問をメモしておきましょう。
- 4 母子健康手帳は持ちましたか？
- 5 住所が確認できるもの（小児医療証等）は持ちましたか？
- 6 予診票（接種券）の記入は済みましたか？
- 7 保護者が同伴できない場合は、委任状（p 7、25 参照）を用意しましたか？

1 予防接種とは

私たちの身の周りには、細菌やウイルスによって引き起こされる様々な感染症があります。予防接種では、感染症の原因となるウイルスや細菌の力を弱めた「ワクチン」により免疫をつけることで、その病気にかかりにくくしたり、かかっても重くならないようにすることができます。

**Q. 今は流行していない感染症だから、
予防接種は必要ないのでは？**

A. 多くの方が予防接種を受けていることによって、感染症の流行が抑えられています。ワクチンを接種できるようになる前の赤ちゃんなど、ワクチン接種を受けられない人たちを感染症から守るためにも、社会全体で流行させないことが大切です。

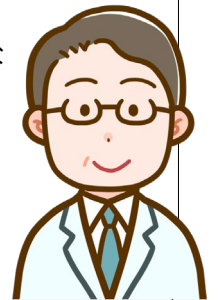


Q. 副反応が心配です。

A. 現在、日本で使用しているワクチンは副反応が少ないものですが、少しでも心配なことがあるときは、かかりつけ医とよく相談し、十分に納得したうえで予防接種を受けるようにしましょう。

予防接種の対象となっている感染症は、万一かかると重たい症状が現れたり、治った後も障害が残ることが心配されているものばかりです。

(関連：p 6 接種前の注意、p 8 接種後の注意、p 24 救済制度)



2 横浜市の予防接種

定期接種 (横浜市が実施。予防接種法で規定)

- ・接種日時時点で横浜市に住民票がある方が対象
(市外での接種を希望される場合は、事前に区役所 (p26) にご相談ください)
- ・p 2-3の表の接種対象年齢に相当する方は、**無料で接種**できます。
- ・接種を受ける際には、
 - 母子健康手帳
 - 住所を確認できるもの (小児医療証等)
 - 予診票(接種券)
 - 委任状(保護者が同伴できない場合 p 7、p 25 参照)
をお持ちください。
予診票は、接種を推奨する年齢になる前に、個別に送付いたします。

任意接種 (定期接種以外のもの)

- ・費用は基本的に全額自己負担
- ・おたふくかぜなど、
定期接種となっていないもの
- ・定期接種の接種年齢を過ぎた場合
(白血病等、長期に渡る疾患により接種ができない場合は、区役所 (p26) にご相談ください)

※打ち忘れ等により
接種対象年齢を過ぎてしまったときも、
無料で接種できる場合があります。
できるだけ早く、区役所 (p26) に
ご相談ください。

母子健康手帳は、一生大切に保存してください

就学、海外渡航時などに必要となる場合があります。
また、中学生となる4月以降には、再交付はできません。
過去の接種歴が不明な場合は、医療機関において通常5年間カルテが保存されていますので、接種した医療機関に直接お問合せください。
それでも不明な場合は、接種の前に医師にご相談ください。



◆定期予防接種一覧（通年）（令和8年4月時点）

下記の予防接種は、「横浜市予防接種 協力医療機関」で接種できます。 協力医療機関名簿▶
 予約が必要な場合もありますので、事前に医療機関に確認してください。
 医療機関名簿は、お住まいの区の区役所 福祉保健課 健康づくり係でも配布しています。



※接種当日は0日目として数えます。（接種間隔について、詳しくはp4をご参照ください）

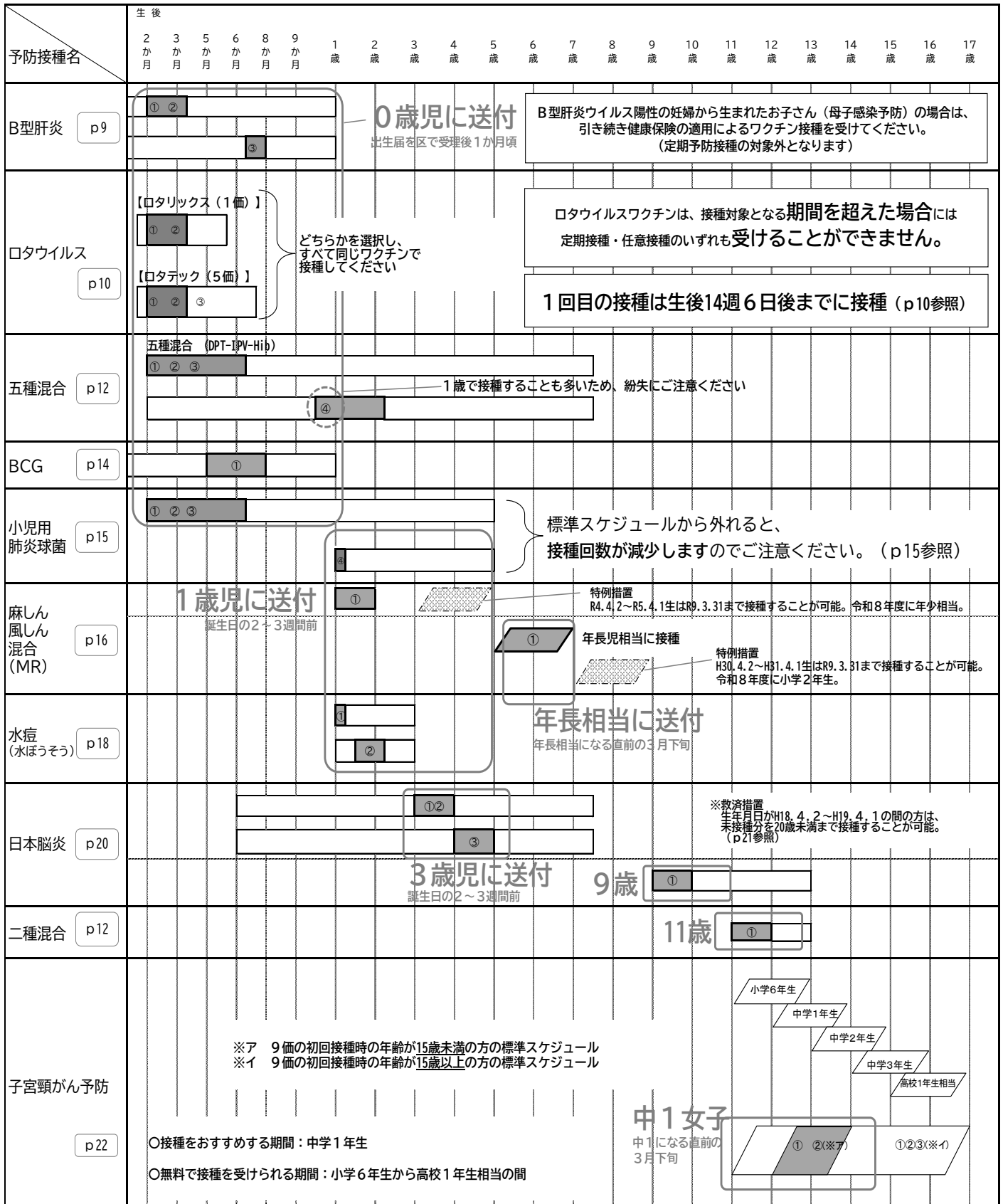
ワクチン名	種類	接種をおすすめする年齢 (標準の接種年齢)と接種方法		無料で受けられる年齢 (接種対象年齢)	接種完了チェック	
					接種回数	完了した場合は○
B型肝炎	不活化	1回目、2回目 3回目	生後2か月、3か月 27日以上の間隔で2回 1回目接種後、139日以上の間隔で1回(生後7か月～8か月)	生後1歳未満	3回	
ロタウイルス (飲むワクチン)	生(経口)	それぞれの接種対象年齢の間に、いずれかのワクチンを2回、または、3回接種 (※全て同じワクチンを接種)	1回目 生後2か月から出生14週6日後までに接種 2回目・3回目 ・ロタリックス【1価】 1回目接種後、27日以上の間隔で1回(出生24週0日後まで) ・ロタテック【5価】 1回目接種後、27日以上の間隔で2回(出生32週0日後まで)	ロタリックス【1価】 出生6週0日後から 出生24週0日後まで ロタテック【5価】 出生6週0日後から 出生32週0日後まで	2回 または 3回	
五種混合 (DPT-IPV- Hib) ジフテリア、破傷風、 百日せき、ポリオ、ヒブ	不活化	1期初回(3回) 1期追加	生後2か月～7か月未満の間に接種開始し、 20日～56日の間隔で3回 初回接種(3回)終了後、6か月～18か月の間に1回	生後2か月～ 7歳6か月未満	4回	
BCG(結核)	生		生後5か月～8か月未満の間に1回	生後1歳未満	1回	
小児用肺炎球菌	不活化	初回(3回) 追加	生後2か月～7か月未満の間に接種開始し、 生後12か月までに27日以上の間隔で3回 生後12～15か月の間に初回(3回)接種終了後60日以上の間隔で1回	生後2か月～5歳未満 (追加接種は 生後12か月以降に接種)	4回	
麻しん風しん混合 (MR)	生	1期 2期	生後12か月～24か月未満の間に1回 5歳～7歳未満で小学校入学1年前の4月1日～ 入学する年の3月31日までの間に1回		2回	
水痘(水ぼうそう)	生	初回 追加	生後12か月～15か月未満の間に1回 初回接種終了後、6～12か月の間に1回 (最短3か月以上の間隔で接種可能)	生後12か月～36か月未 満 【1歳、2歳】	2回	
日本脳炎	不活化	1期初回(2回) 1期追加 2期	3歳中に6日～28日の間隔で2回 4歳中に1回(初回接種(2回)終了後、おおむね1年後(最短6か月以上)) 9歳中に1回	生後6か月～7歳6か月未 満 (3歳未満は、 接種量が半分に なります)	3回 1回	
二種混合(DT) ジフテリア、破傷風	不活化	2期	11歳中に1回	11歳～13歳未満	1回	
子宮頸がん予防 (HPV)	不活化		中学1年生時に、いずれかのワクチンを規定回数接種(※全て同じワクチンを接種) 初回接種が 【15歳未満】1回目の接種から6か月後に接種(最低5か月以上あける) 【15歳以上】1回目の接種から2か月後(最低1か月以上あける)に2回目、 2回目の接種から4か月後(最低3か月以上あける)に3回目を接種	小学校6年生～ 高校1年生相当 (女子のみ)	2回 または 3回	

ワクチンの接種時期は、感染症にかかりやすい時期や高い効果が得られる年齢を考慮して決められています。

「接種をおすすめする年齢」になったら、できるだけ早く接種を検討してください。

① 接種をおすすめする年齢
(標準の接種年齢/丸数字は何回目の接種かを表します。)

無料で受けられる年齢
(法律で定められている接種対象年齢)



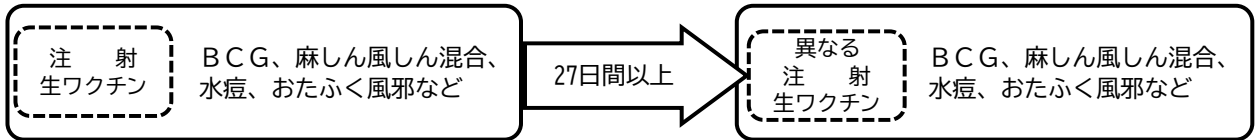
3 同時接種と接種間隔

(1) 同時接種

医師が必要と認めた場合には、異なる種類のワクチンを同時に（接種部位は別々に）接種を行うことができます。同時接種については、接種を受ける前に、接種医にご相談ください。

(2) 異なる種類のワクチンの接種間隔

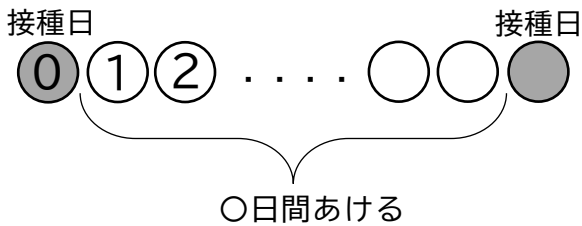
予防接種を安全かつ効果的に接種するため、「注射生ワクチン」を接種する場合は、異なる種類の「注射生ワクチン」の接種日から27日間以上の間隔をおく必要があります。



「27日間以上間隔をおく」とは、接種当日を0日目とするため、例えば、1日（月曜日）に接種した場合、次の接種は、29日（月曜日）（4週後の同じ曜日）以降に可能となります。
 ※注射生ワクチン同士以外では、2つの異なるワクチン間の接種間隔に制限はありません。

(3) 同じ種類のワクチンの接種間隔

それぞれ定められた間隔をおいて接種を行います。



接種間隔は、接種日を含めずに間の日数を数えます。
 例えば、6日以上間隔をおくとすると、
 1回目を3月1日に接種
 ➔2回目は3月8日以降に接種可能

接種日	月	火	水	木	金	土	日	数えにくい日数
	①	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	60日以上 = 8週後の同じ曜日から5日後 (61日目) から接種できます。 (小児用肺炎球菌)
20日以上の間隔をおく場合は、この日から接種可能	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	139日以上 = 20週後の同じ曜日(140日目) から接種できます。 (B型肝炎)
27日以上の間隔をおく場合は、この日から接種可能	29	30	31					

【●か月後】 ●か月後の接種日と同日以降に接種（4週間後、30日後）

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
3月5日	例：6か月後					9月5日から 接種可能	
3月31日	※月末の日にちがない場合は、翌月の1日（例：6か月後）						10月1日から 接種可能

◆ 生ワクチン

(BCG、MR、水痘、ロタワクチン等)

生ワクチンは、生きた細菌やウイルスの病原性を限りなく弱くした(弱毒化した)もので、これを接種することによってその病気にかかった場合と同じように抵抗力(免疫)がつきます。十分な抵抗力(免疫)ができるのに約1か月が必要です。しかし免疫が次第に低下し、弱くなることがあるので、追加接種を必要とするものもあります。

一般に、生ワクチンは妊娠中の方には接種しません。

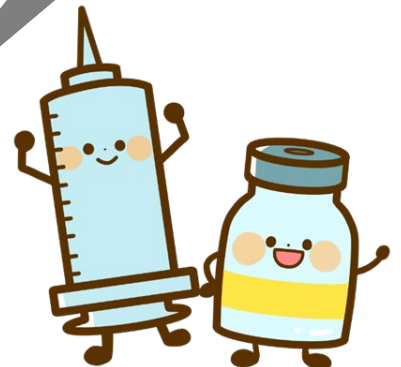
◆ 不活化ワクチン

(五種混合、B型肝炎、小児用肺炎球菌、日本脳炎、子宮頸がん予防(HPV)ワクチン等)

不活化ワクチンは、細菌やウイルスを殺し抵抗力をつくるのに必要な成分を取り出して病原性をなくしてつくったものです。この場合、体内で細菌やウイルスは増殖しないため、複数回接種することによって、抵抗力をつけます。一定の間隔で2~3回接種し、最小限必要な抵抗力をつけたあと、約1年後に追加接種をして十分な抵抗力をつけます。

しかし、しばらくすると少しずつ抵抗力が低下してしまいますので、長期に抵抗力を保つためには、それぞれのワクチンの性質に応じて一定の間隔で追加接種を受けることが必要です。

だから、
何度も接種が
必要なんだね



4 接種前の注意

必ずお読みください

(1) 予防接種を受けることができない方

次のようなお子さんは接種を受けられません。

- ア 明らかに**発熱**(通常 37.5℃以上)しているお子さん
- イ **重篤な急性疾患**にかかっていることが明らかなお子さん
- ウ その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、**アナフィラキシー**を起こしたことがあることが明らかなお子さん
- エ **タウウイルスワクチン接種の場合** p10 参照
- オ **BCG接種の場合** p14 参照
- カ その他、医師が不適切な状態と判断した場合

通常、接種後 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことで、汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、ショック状態になるような激しい全身反応が出現することがあります。

(2) 予防接種を受ける際に注意を要する方

以下に該当する場合、必ずかかりつけ医にお子さんを診てもらい、予防接種を受けてよいかどうかを事前に判断してもらいましょう。

- ア **心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害**などで治療を受けているお子さん
- イ 予防接種で、**接種後2日以内に発熱のみ**られたお子さん又は、**発疹、じんましん**などアレルギーと思われる異常がみられたお子さん
- ウ 過去に**けいれん(ひきつけ)**を起こしたことがあるお子さん
けいれん(ひきつけ)の起こった年齢、そのとき熱はあったか、その後けいれん(ひきつけ)を起こしているか、接種するワクチンの種類などにより、条件が異なります。必ずかかりつけ医と事前に相談しましょう。
- エ 過去に**免疫不全**の診断がされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全の方がいるお子さん(たとえば、赤ちゃんの頃、**肛門のまわりにおでき**を繰り返すようなことがあった方)
- オ ワクチンの製造過程で培養に使う卵の成分や抗菌薬、安定剤などに**アレルギー**があるとされたことのあるお子さん
- カ **タウウイルスワクチン接種の場合** p10 参照
- キ **BCG接種の場合** p14 参照

※**感染症**にかかった場合には、全身状態の改善を待って、接種してください。なお、接種については、免疫状態の回復を考え、以下の間隔を空けたうえで、接種する医師にご相談ください。

かかった疾病	間 隔
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑(りんご病)など	⇒ 治ってから1~2週間程度
風しん、みずぼうそう(水痘)、おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)など	⇒ 治ってから2~4週間程度
麻しん(はしか)	⇒ 治ってから4週間程度



感染症にかかると、上記のとおり、**治ってから1か月**ほど予防接種が受けられないことがあります。

その間に「無料で受けられる期間」が過ぎてしまっても、「**長期による疾患**」の延長措置は受けられません。

予防接種は「接種をおすすめする年齢」の中で、できるだけ**早めに接種を検討**してください。

(3) 一般的注意

予防接種は、体調の良いときに受けるのが原則です。日頃から、保護者の方はお子さんの体質、体調など健康状態によく気を配ってください。何か気にかかることがあれば、あらかじめ、かかりつけ医にご相談ください。

ア 前日まで

- (ア) 受ける予定の予防接種の必要性や副反応について（p 9以降を参照）、よく理解しましょう。分からないことは、接種を受ける前に接種医にお問い合わせください。
- (イ) 事前に、予防接種を受ける協力医療機関（p 2参照）で予約してください。

市外で接種を希望する方（里帰り出産・入院）

事前にお住まいの区の区役所福祉保健課健康づくり係（p 26参照）での手続きが必要です。



- ① 里帰り出産で市外に滞在中
- ② 市外の病院に入院中

上記の場合、事前に必要な手続きをしていただくことにより、接種に係る費用の払い戻し（償還払い）を受けることができます。

なお、実施依頼書の発行には2週間程度、払い戻しには1か月半程度かかります。

イ 接種当日

- (ア) 朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わらないことを確認してください。接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったらかかりつけ医に相談のうえ、接種をするかどうか判断しましょう。
- (イ) 自宅でお子さんの体温を測り、平熱であることを確かめてください。少しでも体調の悪いときは、無理をせず、日程の変更を検討してください。
- (ウ) 予診票は、接種医への大切な情報です。責任を持って詳しくご記入ください。特に、最近受けた予防接種、アレルギーなどをご確認ください。
- (エ) 母子健康手帳、住所が確認できる書類（小児医療証等）、予診票(接種券)を必ずお持ちください。
- (オ) 予防接種を受ける医療機関には、お子さんの日ごろの健康状態をよく知っている保護者の方がお連れください。

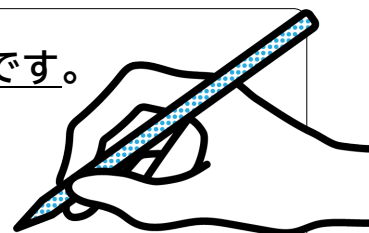
保護者（※）が同伴できない場合は「委任状」が必要です。

○接種を受けるお子さんの健康状態を普段から熟知し、医師の質問に答えられる方が同伴してください。

○委任状の様式(例)はp 25をご参照ください。

様式(例)に記載の項目が全て記載されていれば様式は問いません。

※予防接種法上、「保護者」とは親権を行う者又は後見人を指します。



5 接種後の注意

(1) 接種後にみられることがある一般的な副反応

予防接種を受けたあと、接種部位の症状（赤み、腫れ、痛み、しこり）や発熱等の症状が現れることがあります。

こうした症状を総称して「副反応」といいます。

症状が異常に強い場合や、そのほか異常な症状があった場合には、すみやかに接種医の診察を受けましょう。

より詳しい副反応については、
p 9以降の各項目をご覧ください。

（関連：p 24 予防接種の救済制度）

(2) 一般的注意事項

ア 接種後 30 分間

医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。

急な副反応が、この間に起こることがあります。

イ 接種後 1 週間

不活化ワクチンの副反応の出現に注意しましょう

（B型肝炎、五種混合、小児用肺炎球菌、日本脳炎、二種混合、子宮頸がん予防など）

ウ 接種後 4 週間

生ワクチンの副反応の出現に注意しましょう。

（BCG、麻しん風しん混合（MR）、水痘、ロタウイルスなど）

エ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は可能ですが、接種部位をこすることはやめましょう。

オ 接種当日は、激しい運動を避けてください。

カ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合はすみやかに医師の診察を受けましょう。



6 各感染症とワクチンの概要

B型肝炎

★定期接種対象外の方

B型肝炎ウイルス陽性の妊婦から生まれたお子さんで、母子感染予防のためにB型肝炎ワクチンの接種を受けている場合は、**定期予防接種の対象外**となります。
引き続き、健康保険の適用によるワクチン接種を受けてください。

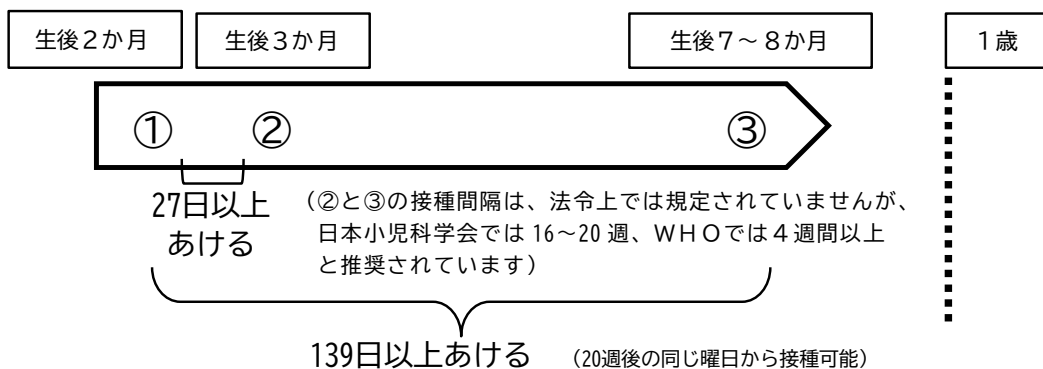
ア 病気の説明

B型肝炎ウイルスに感染すると、急性肝炎となりそのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合もあります。一部では劇症肝炎といって、激しい症状から死に至ることもあります。また、症状がないままウイルスが肝臓内部に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんなどになることがあります。特に年齢が低いほど、急性肝炎の症状は軽いかあるいは無症状な一方、ウイルスがそのまま潜んでしまう持続感染の形をとりやすいことが知られています。感染は、B型肝炎ウイルス（HBs抗原）陽性の母親から生まれた新生児、肝炎ウイルス陽性の血液や体液に直接接触した場合、肝炎ウイルス陽性者との性的接触などで生じます。

イ 予防接種の方法

標準スケジュール（標準的な接種年齢は、生後2か月、生後3か月、生後7～8か月）

- 1回目、2回目： 1回目を接種したのち、27日以上の間隔をおいて2回目を接種します。
3回目： 1回目の接種から 139日以上の間隔をおいて、3回目を接種します。



ウ ワクチンの切り替え接種

B型肝炎のワクチンは2種類あり、基本的には3回の接種を同一のワクチンで行うことが望ましいと考えられています。ただし、切り替えて接種する場合でも、定期接種としての実施は可能です。

なお、切り替えて使用した場合の有効性及び安全性については、厚生労働省の研究結果で、有用性が確認されています。

エ ワクチンの副反応

副反応としては、接種部位の赤み・腫れ・硬結（しこり）・痛み、発熱、倦怠感、頭痛などがみられることがあります。また、極めてまれですが、重い副反応として、アナフィラキシーや急性散在性脳脊髄炎（ADEM）が報告されています。

ロタウイルス胃腸炎

★ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度接種する必要はありません。

★赤ちゃんのお腹がいっぱいだと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種前 30 分ほどは授乳を控えることをおすすめします。上手に飲めるよう、医師、看護師の指示に従ってください。

★接種対象外の方

- ・未治療の先天的な消化管障害があるお子さん
- ・過去に腸重積症をおこしたお子さん
- ・重症複合型免疫不全（SCID）があるお子さん

★接種に注意を要する方

- ・活動性胃腸疾患や下痢等の胃腸障害があるお子さん

ア 病気の説明

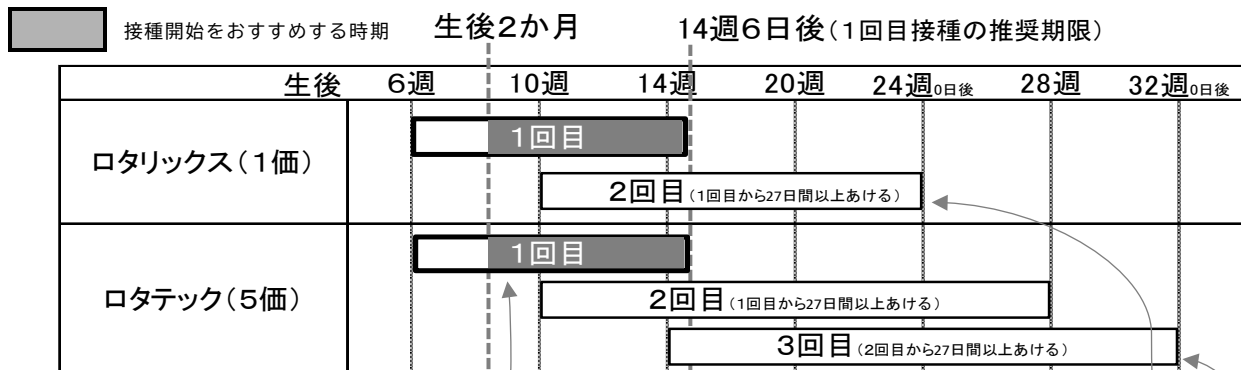
ロタウイルスは、世界のどこでもみられる、主に5歳未満の乳幼児に多くみられる急性胃腸炎の原因ウイルスです。主な症状は下痢・嘔吐・発熱などで、ときに脱水、けいれん、肝機能異常、腎不全を、まれですが、急性脳症等を合併することがあります。年齢にかかわらず、何度でも感染発病しますが、乳児期での初感染が最も重症で、その後感染を繰り返すにつれて軽症化していきます。

そのため、最初の感染を防ぐことを最大の目的として乳児早期にワクチン接種を行います。

このワクチンは、ロタウイルス胃腸炎の発症を7～8割減らし、入院するような重症例に限ればほとんど予防できます。ただし、ロタウイルス以外の原因による胃腸炎には予防効果は示しません。

イ 予防接種の方法

ロタウイルス予防接種は、ワクチンが2種類あります。2つのワクチンに予防効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なりますので、他のワクチンとの接種スケジュールなどを考慮し、かかりつけ医とご相談のうえ、いずれかのワクチンを接種してください。なお、**途中からワクチンの種類を変更することは原則できません**ので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種してください。



1回目の接種は、両ワクチンともに、**生後2か月から出生14週6日後までに**接種します。

(週齢が高くなるにつれ、自然発症による腸重積症のリスクが増加しますので、**出生14週6日後を越えての初回接種はおすすめしません。**)

ロタリックス【1価】は、1回目接種後、27日以上の間隔をおいて、2回目を接種します。**(出生24週0日後まで)**

ロタテック【5価】は、1回目接種後、それぞれ27日以上の間隔をおいて、残り2回を接種します。**(出生32週0日後まで)**

この期限を超えた乳幼児に接種した時、**有効性・安全性についての情報はありません。**これより前に接種を完了させてください。

ウ 接種後の注意

接種当日の重い副反応としてまれにアナフィラキシー症状（ワクチンへのアレルギーによる発疹、呼吸困難など）が起こる可能性があるため十分な観察を行ってください。

腸重積症について

腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることです（下図参照）。

0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こりうる病気で、もともと、3～4か月齢ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなります（下のグラフ参照）。

接種を受けてから約1週間の間は、腸重積症のリスクが通常より高まるとされています。

腸重積症の症状としては、

「突然はげしく泣く」

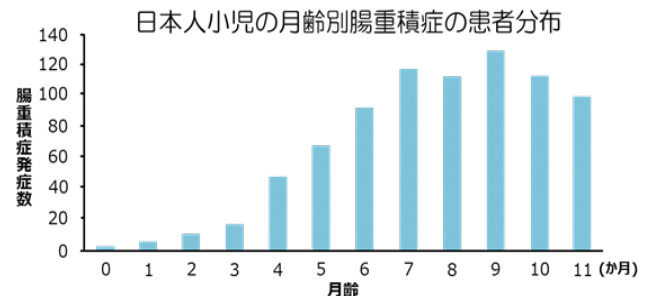
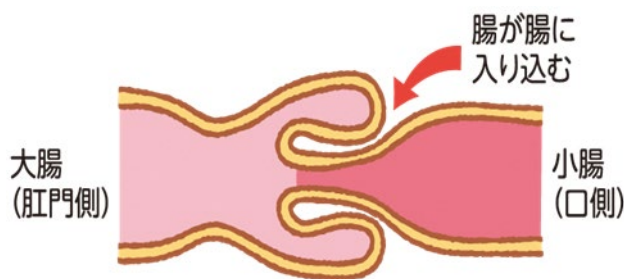
「機嫌が良かったり不機嫌になったりを繰り返す」

「嘔吐を繰り返す」

「（イチゴゼリー状の）血便が出る」

「ぐったりして顔色が悪い」などがあります。

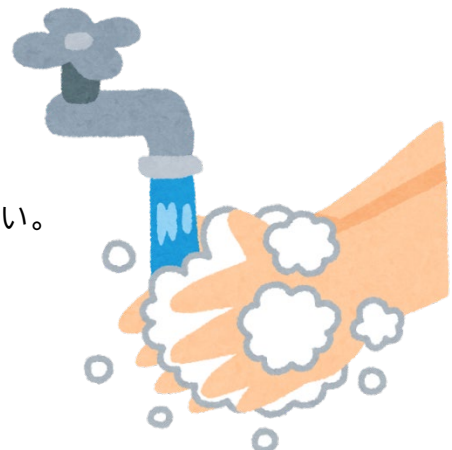
これらの症状が一つでも見られた場合や、いつもと様子が違う場合は速やかに医療機関を受診させてください。接種した医療機関とは別の医療機関を受診する場合は、このワクチンを接種したことを医師に伝えてください。



早めに接種を開始し、規定回数接種することをおすすめします。

腸重積症は、手術が必要になることもあります。発症後、早期に治療すれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。

※ロタウイルスのワクチン接種後2週間ほどは、赤ちゃんの便の中に、ワクチンのウイルスが含まれることがあります。おむつ交換の後などは、ていねいに手を洗ってください。



ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ

五種混合：上記5種

二種混合：ジフテリア、破傷風

ア 病気の説明

(ア) ジフテリア (Diphtheria)

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。

ワクチン接種により、現在では国内の患者発生数は年間0が続いていますが、アジア地域では時折流行的発生がみられています。

症状は高熱、のどの痛み、犬吠^{けんぼうよう}様のせき（ケンケンという犬がほえるようなせき）、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2～3週間後に菌の出す毒素によって、心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

(イ) 百日せき (Pertussis)

百日せき菌の飛沫感染で起こります。

百日せきワクチンの接種がはじまって以来、患者数は減少してきていますが、最近、長びくせきを特徴とする学童から思春期、成人の百日せきがみられ、乳幼児への感染源となり、特に新生児・乳児が重症化することがあるので注意が必要です。

百日せきは普通のかぜのような症状で始まります。続いて咳がひどくなり、顔をまっ赤にして連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。通常、熱は出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）、けいれんが起きることがあります。乳児では肺炎や脳症などの重い合併症を起こし、命を落とすこともあります。

(ウ) 破傷風 (Tetanus)

破傷風菌はヒトからヒトへと感染するのではなく、土の中にいる菌が傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉の強直性けいれんを起こします。最初は口が開かなくなる症状で気付かれ、やがて全身のけいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。患者の半数は本人や周りの人では気づかない程度の軽い刺し傷が原因で感染しています。土の中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

(イ) ポリオ (Polio)

ポリオは、かつては「小児まひ」とも呼ばれ、わが国でも1960年代前半までは大流行を繰り返していました。予防接種の効果で、国内での自然感染は報告されていません。

しかし、現在でもパキスタン、アフガニスタンなどの国では野生株ポリオウイルスによるポリオの発生があることから、これらの地域で日本人がポリオに感染したり、日本にポリオウイルスが入ってくる可能性があります。

感染してもほとんどの場合は無症状ですが、5%くらいに、のどの痛み、発熱などのかぜ様症状がみられます。また、感染した人の1～2%は無菌性髄膜炎を発症しますが、2～10日で軽快します。

しかし、感染者の約1,000～2000人に1人は、麻痺を起こし、後遺症として運動障害を残す場合があります。ときに、呼吸不全を起こして死亡することもあります。

(オ) ヒブ (Hib)

インフルエンザ菌、特にb型 (Hib) は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などのほか、髄膜炎、敗血症、喉頭がい炎、肺炎などの重篤な全身感染症を起こす原因となります。Hib (ヒブ) による髄膜炎は2010年以前は、5歳未満人口10万対7.1～8.3とされ、国内では年間約400人が発症し、約11%が予後不良と推定されていました(*)。生後4か月～1歳までの乳児が過半数を占めていました。現在は、Hibワクチンが普及し、侵襲性インフルエンザ菌感染症はほとんどみられなくなりました。*厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会の資料による。

イ 五種混合ワクチンの予防接種の方法

1期は五種混合ワクチン、2期は二種混合ワクチンを使用し、以下のとおり接種します。

(ア) 1期初回接種及び追加接種

1期として、生後2か月～7歳6か月未満の間に初回接種3回(20日～56日の間隔を置いて)、追加接種1回(初回接種3回終了後、6か月～18か月を経過した時期)の計4回、五種混合ワクチンを接種します。

(イ) 2期接種

2期として11歳～13歳未満の間に1回、二種混合ワクチンを接種します。

◇接種をおすすめする年齢と無料で受けられる年齢

① 接種をおすすめする年齢
 (標準の接種年齢/丸数字は何回目の接種かを表します。)
 無料で受けられる年齢
 (法律で定められている接種対象年齢)

五種混合のスケジュール

予防接種名	年 齢	生 後																	
		2 か 月	3 か 月	6 か 月	9 か 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳
五種混合	1期	①②③			④														
二種混合	2期																	①	

ウ 五種混合・二種混合ワクチンの副反応

五種混合ワクチンの主な副反応は、接種部位の赤み、腫れ、硬結(しこり)など、接種部位以外の副反応として、発熱、気分変化、鼻汁、せき、発疹、食欲減退、喉の発赤、嘔吐などが報告されています。

また、重大な副反応ではショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどが報告されています。

二種混合ワクチンの主な副反応は、接種部位の赤み、腫れ、硬結(しこり)など、接種部位以外の副反応として、発熱、関節痛、頭痛、めまい、失神・血管迷走神経反応、下痢、蕁麻疹、発疹などが報告されています。

また、重大な副反応では、ショック、アナフィラキシー、蕁麻疹、呼吸困難、血管性浮腫などが報告されています。

結核（BCG）

★接種対象外の方

- ・ 予防接種や外傷等によるケロイドが認められるお子さん
- ・ 過去に結核にかかり、治療を受けたことがあるお子さん

★接種に注意を要する方

- ・ 過去に結核患者との長期の接触があるなど、結核感染の疑いのあるお子さん

ア 病気の説明

結核菌の感染で起こります。わが国では、まだ年間約1万人の患者が発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）は、お母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんも結核にかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

BCGは、重症になりやすい乳幼児期の結核を防ぐ効果が確認されているので、生後5か月に達したら、なるべく早くBCG接種を受けましょう。また、周りに結核患者がいて感染が疑われる場合は、接種を受ける前に接種医にご相談ください。

イ 予防接種の方法

標準的な接種期間として、**生後5か月から8か月の間に1回接種**します。

これを過ぎてしまった場合には、**1歳までに接種**を行います。

BCGの接種方法は管針法といって、スタンプ方式で上腕の2か所に押し付けて接種します。接種部位は日陰で10分程度乾かします。

ウ ワクチンの副反応

- 接種後10日ごろに接種部位に赤いポツポツができ、一部に小さい膿ができることがあります。この反応は接種後4週間ごろに最も強くなりますが、その後、かさぶたができて、接種後3か月頃までには、接種のあとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。自然に治るので包帯をしたり、バンソウコウを貼ったりせず、そのまま清潔に保ってください。ただし3か月以上経過しても接種のあとがジクジクしているようなときは医師にご相談ください。
- 接種した側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常はそのまま様子を見ていけば治りますが、大きく腫れたり、化膿して自然に破れて膿が出る場合、接種部位がただれたりした場合は、医師にご相談ください。
- まれではありますが、重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー、全身播種性BCG感染症、骨炎・骨髄炎・骨膜炎、皮膚結節様病変があげられます。

～特にご注意いただきたい症状「コッホ現象」～

接種後早期、1週間～10日以内（多くの場合は3日以内）に、接種部位が赤くなったり、腫れたり、針痕が化膿する強い反応が出る場合があります。この反応を「コッホ現象」といいます。

「コッホ現象」と思われる反応があった場合、結核に感染していないか検査する必要がありますので、接種した医療機関またはお住まいの区の区役所福祉保健課健康づくり係（p26 参照）にご連絡ください。

肺炎球菌感染症

ア 病気の説明

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の二大要因のひとつです。この菌は子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を起こします。

肺炎球菌による化膿性髄膜炎の罹患率は、ワクチン導入前は5歳未満人口 10 万対 2.6~2.9 とされ、年間 150 人前後が発症していると推定されていました(*)。死亡率や後遺症例(水頭症、難聴、精神発達遅滞など)はヒブによる髄膜炎より高く、約 21%が予後不良とされています。

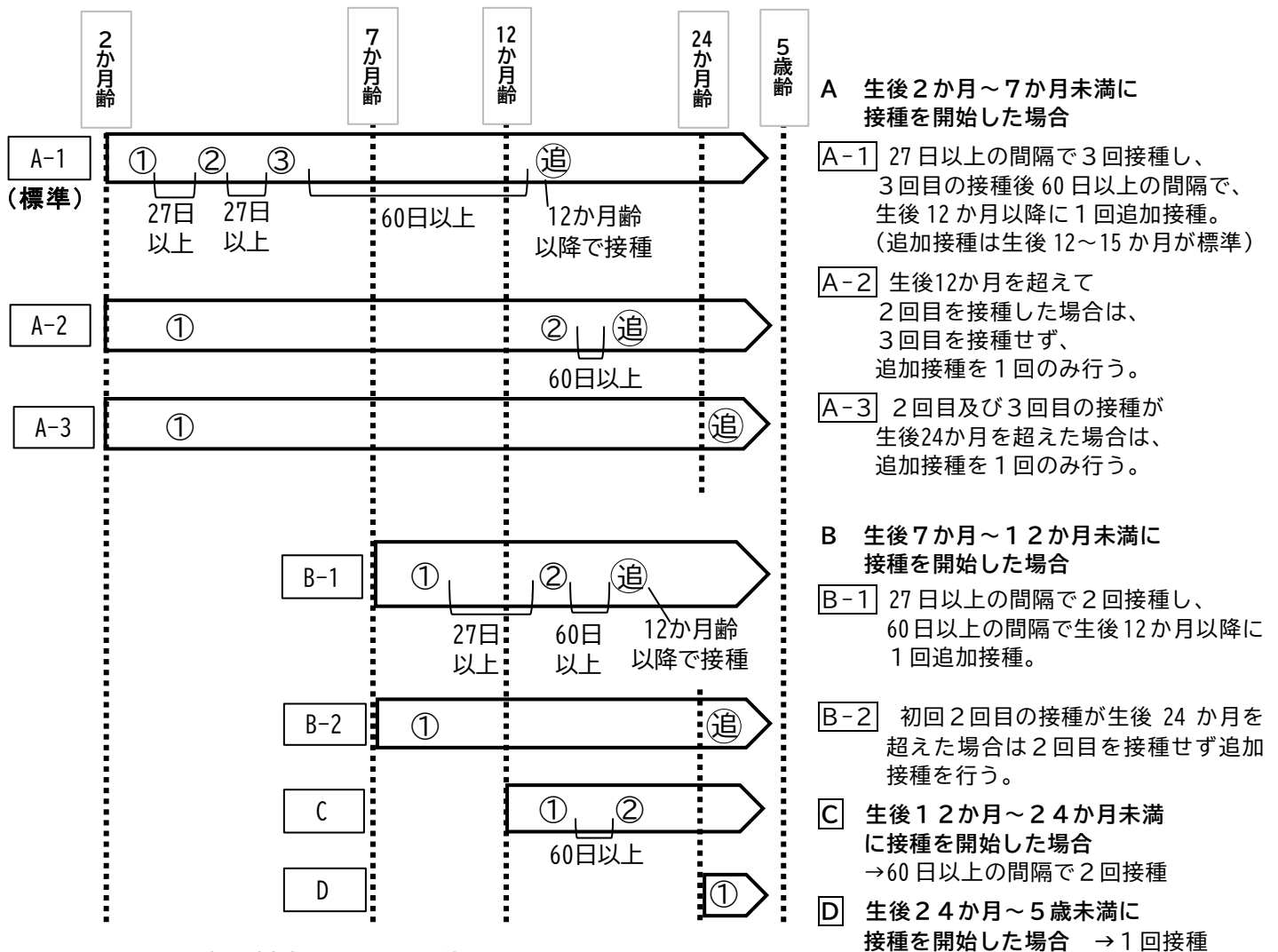
現在は、肺炎球菌ワクチンが普及し、肺炎球菌性髄膜炎などの侵襲性感染症は激減しました。

* 厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会の資料による。

イ 予防接種の方法

初回接種を開始した月齢により、次の方法で行います。(標準的には4回接種)

標準スケジュールから外れると、接種時期により定期接種で必要な回数が減少します。



予診票は上記表に対応するものを使用し、使用しないことが確定している予診票は破棄してください。

ウ ワクチンの副反応

接種部位の赤み・腫れ・硬結(しこり)・痛み、発熱などがみられることがあります。

麻しん、風しん（MR）

ア 病気の説明

(ア) 麻しん（はしか）（Measles）

麻しんウイルスの空気感染、飛沫感染や接触感染によって起こります。ウイルスに感染後、無症状の時期（潜伏期間）が約10～12日続きます。その後、発熱、せき、鼻汁、めやに、発しんなどの症状がでます。症状が出始めてから3～4日は38℃前後の熱とせきと鼻汁、めやにが続き、一時熱が下がりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱となり、首すじや顔などから出始めた発しんが、その後全身に広がります。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症として、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などがあり、発生する割合は麻しん患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人です。脳炎は約1,000人に1～2人の割合で発生します。

また、麻しんにかかると、数年から10数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という重い脳炎を発症することがあり、麻しん患者約10万人に1～2人の割合でおこります。麻しんにかかった人のうち、約1,000人に1人程度の割合で死亡することがあります。日本でも平成12（2000）年前後の流行では年間20～30人が死亡していました。

(イ) 風しん（Rubella）

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染や接触感染によって起こります。ウイルスに感染後、無症状の時期（潜伏期間）が約2～3週間続きます。その後、軽い風邪症状ではじまり、発しん、発熱、首のうしろのリンパ節が腫れるなどが主な症状として現れます。また、そのほかに、目が赤くなる（眼球結膜の充血）などの症状が見られることもあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。令和元年頃の流行（累計5,239人）では、血小板減少性紫斑病が21人、脳炎が2人報告されました。大人になってからかかると子どものときより重症化する傾向が見られます。

妊娠中の女性が風しんに感染すると、お腹の赤ちゃんにも感染し、耳が聞こえにくい、目が見えにくい、心臓に異常があるといった「先天性風しん症候群」になる可能性があります。

イ 予防接種の方法

(ア) 1期接種

生後12か月～24か月未満の間に麻しん風しん混合（MR）ワクチンを1回接種します。

(イ) 2期接種

小学校入学1年前の4月1日～入学する年の3月31日までの間（いわゆる幼稚園・保育園の年長児）に麻しん風しん混合（MR）ワクチンを1回接種します。



ウ ワクチンの副反応

主な副反応は、発熱と発しんです。これらの症状は、接種後5～14日の間に多く見られます。接種直後から翌日に過敏症状と考えられる発熱、発しん、掻痒（かゆみ）などがみられることがありますが、これらの症状は通常1～3日でおさまります。ときに、接種部位の赤み、腫れ、硬結（しこり）、リンパ節の腫れ等が見られることがありますが、いずれも一過性で通常数日中に消失します。

まれに生じる重い副反応としては、ショック、アナフィラキシー、急性血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれんなどが報告されています。

※ 1歳未満でMRワクチンの任意接種をしている場合でも、その後、定期接種を2回とも接種していただけます。

（0歳での接種は1歳以上での接種に比べて、母体由来の抗体が残っていることから、免疫の獲得が十分ではないことがあるため）

すいとう みず 水痘（水ぼうそう）

★対象者の方へ

既に水痘にかかったことがあるお子さんは、水痘に対する免疫を獲得していると考えられ、基本的には定期接種の対象者とはなりません。
水痘にかかったかわからない場合は、接種をしても差し支えありません。

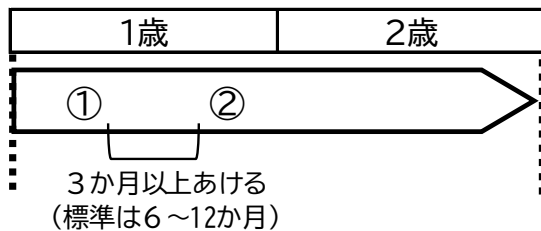
ア 病気の説明

水痘（水ぼうそう）は、水痘・帯状疱疹ウイルスの直接接触、飛沫感染あるいは空気感染によって感染します。潜伏期は通常2週間程度（10～21日）です。発しんは、最初は丘しん（皮膚の表面が小さく盛り上がった状態）で、水疱、膿疱、痂皮（かさぶた）へと移行します。発しんは体幹に多く出現する傾向がありますが、頭髪部にも出現します。時に軽度の発熱を伴うこともあります。一般に軽症疾患ですが、白血病や治療により免疫機能が低下していると重症化します。

イ 予防接種の方法

生後12か月～36か月未満の間に、

- ・初回接種1回、
- ・初回接種終了後、3か月以上（標準は6～12か月）の間隔をおいて追加接種1回の計2回、水痘ワクチンを接種します。



★2回目の接種を1回目から3か月未満で任意接種した場合、定期接種として2回目を接種することができます。

ウ ワクチンの副反応

副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発しんがみられ、まれに局所の赤み、腫れ、硬結（しこり）がみられます。

まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー、急性血小板減少性紫斑病（100万人接種当たり1人程度）が報告されています。

◆ **空気感染**

ウイルスや細菌が空気中に飛び出し、空気を介して人に感染することです。**麻疹、水痘、結核**が空気感染します。

◆ **飛沫感染**

ウイルスや細菌が、咳やくしゃみなどにより、細かい唾液や気道分泌物に包まれて空気中に飛び出し、約1～2mの範囲で人に感染することです。

◆ **接触感染**

皮膚同士の接触、または手すりなどの物体表面を介した間接的な接触で病原体が皮膚に付着し、感染が成立するものです。

◆ **潜伏期間**

ウイルスや細菌などの病原体が感染してから、症状が出るまでの期間をいいます。

特に**麻疹**は
感染力が強く、
同じ部屋にいただけでも
うつることがあります！

日本脳炎

★日本脳炎ワクチンは3歳未満では接種量が半分になります

日本脳炎の予防接種は、3歳以上では0.5mL、3歳未満では0.25mLを接種します。

予診票は3歳の誕生日の2～3週間前に送付しますが、それ以前に接種を希望される方は、横浜市予防接種コールセンター（045-330-8561）にお電話いただければ予診票を送付いたします。

ア 病気の説明

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接ではなく、ブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。

日本での流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは日本全体に分布しています。飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は、毎年6月～10月まで続きますが、この間に地域によっては約80%以上のブタが感染しています。以前は小児、学童に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では予防接種を受けていない高齢者を中心に患者が発生しています。国外では、現在、インドなど南アジアや東南アジアで流行がみられます。

感染しても大多数は無症状で終わりますが、100～1000人に1人が脳炎を発症します。発症した場合、患者の死亡率は20～40%で、生存しても45～70%の人が麻痺などの後遺症を残します。

イ 予防接種の方法

1期：生後6か月～7歳6か月未満 / 2期：9歳～13歳未満

- (1) 「1期初回①」を接種後、6日～28日の間隔をおいて、「1期初回②」を接種します。
- (2) 「1期初回②」接種後、おおむね1年後(最短6か月以上)に「1期追加」を接種します。
- (3) 「2期」を接種します。

◇接種をおすすめする年齢と無料で受けられる年齢

① 接種をおすすめする年齢 (標準の接種年齢/丸数字は何回目の接種かを表します。) □ 無料で受けられる年齢 (法律で定められている接種対象年齢)
(3歳未満は、接種量が半分の0.25mLになります)

年齢 予防接種名	生後																						
	3 か 月	6 か 月	9 か 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳	15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳	20 歳
日本脳炎																							
1期初回						①②																	
1期追加							③																
2期													①										

①と②の間隔が空いた場合でも、②と③は最短6か月はあけます

救済措置(R8.4.1時点)
生年月日がH18.4.2～H19.4.1の間の方は、未接種分を20歳未満まで接種することが可能。

※救済措置の対象の方（平成18年4月2日～平成19年4月1日生まれの方）

接種歴によって、接種方法が異なる場合があります。

接種する前に、横浜市予防接種コールセンター（330-8561）へお問い合わせください。

（母子健康手帳（または接種記録のわかるもの）をお手元にご用意ください）

ウ ワクチンの副反応

発熱や接種部位の腫れや痛みなどの一般的な副反応が報告されています。また、極めてまれですが、重い副反応として、ショック、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病が報告されています。なお、ADEMや脳炎・脳症の発症は日本脳炎ワクチンに特異的なものではありません。これらの発症の原因は、感染症の発症後やその他のワクチンの接種後、また、それ以外の場合もあります。

(参考：日本脳炎の積極的勧奨差し控え～現在までの対応について)

時期	内容
平成 17 年 5 月	厚生労働省から勧告を受けて以降、積極的な勧奨を差し控え
平成 22 年 4 月	厚生労働省通知を受けて、3 歳の方のみ積極的な勧奨を再開
平成 22 年 8 月	厚生労働省令の公布により、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン(★)が 2 期の定期接種で使用可能なワクチンと位置づけられ、2 期の定期接種が実施可能となる。あわせて、2 期の対象者へ 1 期末接種分の救済措置（接種機会）開始
平成 23 年 4 月	厚生労働省通知を受けて、「3 歳」のほか、「4 歳」「9 歳」および「10 歳」の 1 期末接種者の方についても積極的な勧奨を再開
平成 23 年 5 月	厚生労働省令の公布により、接種が完了していない方のうち、生年月日が「平成 7 年 6 月 1 日～平成 19 年 4 月 1 日」の間の方に限り、救済措置として、20 歳未満まで対象年齢が拡大
平成 24 年 4 月	○厚生労働省通知を受けて、「3・4 歳」及び「9・10 歳の 1 期末接種者」に加え、「8 歳の 1 期末接種者」についても積極的な勧奨を再開 ○「平成 19 年 4 月 2 日～平成 21 年 10 月 1 日」の間の方は、2 期の接種期間中に 1 期の未接種分を接種可能となる。（令和 4 年 10 月に終了）
平成 25 年 4 月	○厚生労働省通知を受けて、「3・4 歳」及び「8・9・10 歳の 1 期末接種者」に加え、「7 歳の 1 期末接種者」及び「18 歳の 2 期末接種者」についても積極的な勧奨を再開 ○厚生労働省令の公布により、救済措置の対象者が変更され、接種が完了していない方のうち、生年月日が「平成 7 年 4 月 2 日～平成 19 年 4 月 1 日」の間の方は、救済措置として、20 歳未満まで接種が可能となる。（令和 9 年 4 月に終了予定）
平成 26 年 4 月	厚生労働省通知を受けて、「3・4 歳」に加え、「8 歳（平成 18 年度生まれ）・9 歳（平成 17 年度生まれ）の 1 期追加未接種者」及び「18 歳（平成 8 年度生まれ）の 2 期末接種者」についても積極的な勧奨を再開
平成 27 年 4 月	厚生労働省通知を受けて、「18 歳の 2 期末接種者」についても積極的な勧奨を再開
平成 28 年 4 月～現在	厚生労働省通知を受けて、「18 歳」に加え、「9 歳」についても積極的な勧奨を再開

(★) 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンについて

日本脳炎予防接種には、従来、マウス脳による製法のワクチンが使用されていましたが、新たなワクチンとして、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンが平成 21 年 2 月に薬事法に基づく承認を受け、同年 6 月に厚生労働省令の改正が行われ、定期接種の 1 期の予防接種に使用できるワクチンと位置づけられました。その後、平成 22 年 8 月の厚生労働省令の改正により、2 期の定期接種にも使用できるワクチンと位置づけられています。

子宮頸がん (HPV)

(参考：2025年2月改定版 厚生労働省作成リーフレット)

子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんの主な原因とされるヒトパピローマウイルス (HPV) の感染を予防するワクチンです。

★接種に注意を要する方

- ・妊娠されている方、妊娠している可能性のある方

ア 病気の説明

○ 子宮頸がんの現状

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、若い世代が発症する女性のがんの中で多くの割合を占めるがんです。日本では毎年、約1万人の女性がかかる病気で、患者さんは20歳代から増え始めて、がんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も30歳代までに毎年、約1,000人います。また、高齢者も含めて子宮頸がんが原因で毎年、約3,000人の女性が亡くなっています。

○ 子宮頸がんにかかる仕組み

子宮頸がんは、HPVに持続的に感染することで、子宮頸部に異形成（がんになる手前の状態）を生じた後、がんに至ることが明らかになっています。HPVは、女性の多くが一生に一度は感染するといわれるウイルスです。ウイルスに感染したとしても、ほとんどの人はウイルスが自然に消失しますが、一部の人でHPVの感染が持続した状態となり、数年から数十年かけて進行し、子宮頸がんに至ります。また、HPVの感染は、主に性交渉によって起こるので、感染のリスクは一生のうちに何度も起こりえます。

○ 子宮頸がんの治療

子宮頸がんは、早期に発見し手術等の治療を受ければ、多くの場合、命を落とさず治すことができる病気です。

進んだ前がん病変（異形成）や子宮頸がんの段階で見つかり、手術が必要になります。

病状によって手術の方法は異なりますが、子宮の一部を切り取ることで、妊娠したときに早産のリスクが高まったり、子宮を失うことで妊娠できなくなったりすることがあります。

イ 予防接種の方法

(ア) 接種対象者 小学校6年から高校1年生相当の女子

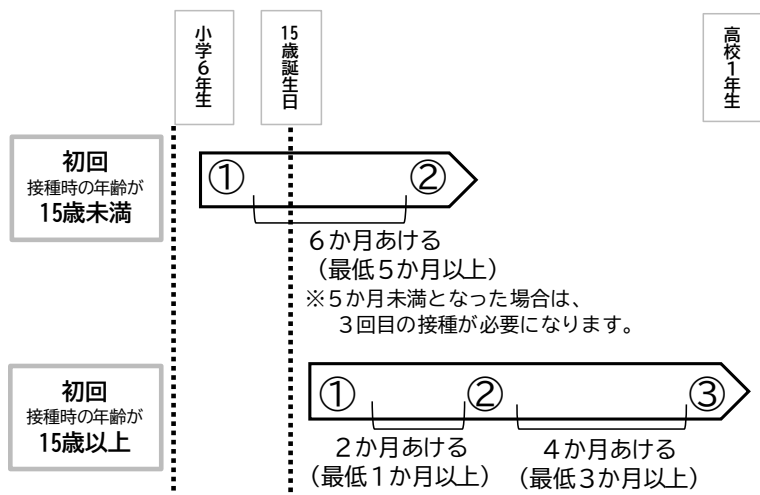
接種をお勧めする年齢（標準の接種年齢）と接種回数：**中学1年生の間に規定回数**

(イ) 接種方法

ワクチンはシルガード9（9価ワクチン）を使用。

初回接種が15歳未満：初回接種の6か月後に追加接種。

初回接種が15歳以上：初回接種の2か月後に2回目、2回目から4か月後に3回目を接種。



ウ 子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）の効果とリスク

シルガード9は、子宮頸がんの主な原因となる HPV16 型と 18 型に加え、同じく子宮頸がんの原因となる他の 5 種類の型のほか、尖圭コンジローマという病気の原因となる 2 つの型の HPV の感染に対応しており、子宮頸がんの原因の 80～90%を防ぎます。

子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）の接種を 1 万人が受けると、受けなければ子宮頸がんになっていた約 70 人ががんにならなくて済み、約 20 人の命が助かると試算されています。

一方で、HPV ワクチン接種後には、多くの方に、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。痛み等の頻度が高いワクチンであり、接種の痛みや緊張のために、血管迷走神経反射が出現し、失神することがあります。接種後は少なくとも 30 分間は背もたれのある椅子に座っていただき、座位で様子を見てください。前に倒れる場合がありますので、注意して様子を観察してください。

また、まれに、重い症状（呼吸困難やじんましん等＜アナフィラキシー＞、手足の力が入りにくい＜ギラン・バレー症候群＞、頭痛・嘔吐・意識低下＜急性散在性脳脊髄炎＞）が起こることがあります。因果関係があるかどうかわからないものや接種後短期間で回復した症状を含めて、HPV ワクチン接種後に生じた症状として報告があったものは、接種 1 万人あたり、シルガード9では約 3 人です。

このうち、報告した医師や企業が重篤と判断した人は、接種 1 万人あたり、シルガード9では約 2 人です。

【接種後の主な副反応】 参考：厚生労働省リーフレット（2025 年 2 月改訂版より抜粋）

発生頻度	シルガード9（9価）
50%以上	注射部位の痛み
10～50%未満	注射部位の腫れ・赤み、頭痛
1～10%未満	浮動性めまい、吐き気、下痢、注射部位のかゆみ、発熱、疲労、内出血など
1%未満	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、注射部位の出血、血腫、倦怠感など
頻度不明	しびれ感、失神、四肢痛 など

エ 子宮頸がん検診

子宮頸がんの対策は、子宮頸がん予防ワクチンで HPV の感染を予防することに加えて、子宮頸がんを早期発見するため、子宮頸がん検診を定期的に受けることが重要です。

このため、**ワクチン接種の有無に関わらず、20 歳になったら、子宮頸がん検診**を受けることをおすすめしています。

7 予防接種の救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けられる場合があります。予防接種による健康被害が生じた場合には、最寄りの医療機関で受診するとともに、お住まいの区の区役所福祉保健課健康づくり係又は医療局健康安全課予防接種係(671-4673)へご相談ください。

◆ 副反応について

副反応には、ワクチンを接種した後に起こる発熱、接種部位の赤み・腫れなどの比較的良好とみられる軽い副反応や、極めてまれに発生する脳炎や神経障害など重大な副反応もあります。

しかし、その副反応はワクチンの接種が原因ではなく、偶然、ワクチンの接種と同時期に発症した感染症などが原因であることがあります。

このため、予防接種後健康被害救済制度では、ワクチンの接種による健康被害であったかどうかを個別に審査し、ワクチンの接種による健康被害と厚生労働大臣が認定した場合に給付をします。

◆ 給付の決定について

申請書やカルテ等、ご提出いただいた資料をもとに横浜市、厚生労働省が必要書類などの確認をします。その資料に基づいて、厚生労働省が設置する（外部有識者で構成される）疾病・障害認定審査会でワクチン接種との因果関係を判断する審査が行われます。

審査の結果を受け、横浜市から支給の可否をお知らせいたします。

◆ 給付の種類

(ア) 医療機関での治療を受けた場合

治療に要した医療費（自己負担分）と医療を受けるために要した諸費用を支給します。

(イ) 障害が残ってしまった場合

年に4回、障害の残ったお子様を養育するための障害児養育年金（18歳以上の場合は、障害年金）を支給します。

(ウ) 亡くなられた場合

葬祭料及び一時金を支給します。

※コピー使用可

委任状

委任者 (親権者)	フリガナ								
	氏 名							印	
	住 所								
	電話番号								
	メール (任意)								
	接種を受ける者 (被接種者)	フリガナ							
		氏 名							
生年月日			年		月		日		

※委任者名は必ず自署又は記名・押印でお願いします。

私は、上記被接種者の予防接種に係る手続き及び実施の判断について、
下記の者を代理人と定め委任します

受任者	フリガナ							
	氏 名							
	住 所							
	電話番号							
	メール (任意)							
	接種を受ける者との続柄							

① 予防接種制度に関するお問い合わせ

横浜市予防接種コールセンター

TEL : 045-330-8561 FAX : 045-664-7296

受付時間 : 9時~17時 (土日祝日・年末年始除く)

対応言語 : 日本語、English、中文、한국어、Tiếng Việt、नेपाली

② 内容により、区役所でのお手続きが必要な場合があります。

- ・ 市外での接種 (里帰り出産・入院による) を希望する方 ▶
- ・ 無料接種期間が過ぎてしまった方

(事前申請により無料で接種できる場合があります。お電話にてご確認ください)



区役所

福祉保健課 健康づくり係 (お住まいの区にお問い合わせください)

(電話→平日8:45~17:15 窓口→平日8:45~17:00 土日祝日・年末年始除く)

お問い合わせの際は「母子健康手帳(接種記録のわかるもの)」を必ずお手元にご用意ください。

青葉	☎ 978-2438	FAX 978-2419	瀬谷	☎ 367-5744	FAX 365-5718
旭	☎ 954-6146	FAX 953-7713	都筑	☎ 948-2350	FAX 948-2354
泉	☎ 800-2445	FAX 800-2516	鶴見	☎ 510-1832	FAX 510-1792
磯子	☎ 750-2445	FAX 750-2547	戸塚	☎ 866-8426	FAX 865-3963
神奈川	☎ 411-7138	FAX 316-7877	中	☎ 224-8332	FAX 224-8157
金沢	☎ 788-7840	FAX 784-4600	西	☎ 320-8439	FAX 324-3703
港南	☎ 847-8438	FAX 846-5981	保土ヶ谷	☎ 334-6345	FAX 333-6309
港北	☎ 540-2362	FAX 540-2368	緑	☎ 930-2357	FAX 930-2355
栄	☎ 894-6964	FAX 895-1759	南	☎ 341-1185	FAX 341-1189

関連ホームページ

ア 横浜市 (予防接種のページ) : 予防接種に関する情報が掲載されています。



QRコードが読み取れない場合は、横浜市 予防接種 で検索

イ 横浜市衛生研究所 : 感染症に関する情報などが掲載されています。



QRコードが読み取れない場合は、横浜市衛生研究所 で検索